

# 全国町並み保存連盟台北大会 報告書

NPO 法人倉敷町家トラスト 代表理事 中村泰典



## 実施期間

令和7年10月31日（金）から11月2日（日）

## 開催趣旨と概要

2025年10月31日から11月2日まで台湾の台北市で全国町並みゼミ台北大会が開催された。テーマは「ふるさとを守り、越境しながらつながる学び」でした。

大会には台湾各地から参加があり、香港、ベトナム、タイ、ミャンマー、インドネシア、マレーシア、シンガポール、ポーランドと日本各地からも約300名が参加しました。

台湾では長く戒厳令が引かれており、保存運動が進み出したのは1987年の「我愛迪化街」運動、旧市街地の開発、産業遺産の保存、集落保存と活用などと多くの地域に広がっています。

清時代の建物、そして日本統治時代、その後の中華民国と現在までの様々な時代を経て街並みや建築物が残されています。

日本統治時代の建築物に関する台湾の歴史として、意識され保存と活用を進めています。

アジア各地の報告もあり、歴史的街並みや建築物、文化資産の保存と継承は各地で進んでおり、多くの学びとつながりができた意義ある大会になりました。

## プログラム

### 全国町並みゼミ台北大会概要

2025年10月30日、11月1日、11月2日

・主会場：台北市・華山1914文化創意産業区西一館

10月30日：開会式・基調講演・各地からの報告（華山1914）

・ 11月1日：4分科会（台北市内各地：午前中まち歩き、午後分科会）

第一分科会：大稻埕歴史街区の回顧と展望

第二分科会：台北場内における官民協力と分野横断的共創

第三分科会：市民生活と産業遺産

第四分科会：台北城南と集落建築群

\*第一分科会で倉敷からの報告

11月2日：全体会・分科会報告のまとめ・峯山富美賞・閉会式

\*第1分科会のまとめは

若者世代から見えた倉敷の現状と課題

若者世代からの問い合わせ

►10月31日

\*開会式

華山1914文化創意産業区西一館（日本統治時代の酒造工場跡地をリノベした複合文化総合施設）で開催



(華山 1914 文化創意産業区西一館)

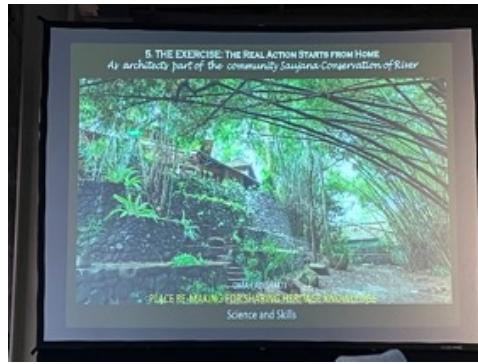


\*基調講演

ラレトナ・T・アディシヤクティ（インドネシア・ジョグジャカルタ・ガジャマダ大学）

インドネシア、ジョグジャカルタの文化生態保存の取り組みが発表された。

遺産は自然・文化そして文化的景観から成り立っており、自然と人為的遺産が空間と時間の中で切り離せない統一体となっており、人類が社会文化と自然環境のバランスに適応するために行ってきた努力の意義を示していると話した。



この基調講演の意味は、近代産業の織りなす発展の中での近代都市のあり方に波紋を投げかけるオルタナティブな地域のあり方を提示した。示唆に富む保存の取り組みである。

\*台北からの報告

丘如華（台湾歴史資源經理学会秘書長）

時代に翻弄されたがそれは多様な文化資源が集積した都市発展の痕跡を今にとどめた。

近年高度な都市化の波の中でも、市民や市民団体が継続的な努力によって多くの文化資産を残し育んできた都市になっている。清時代、日本統治時代、中華民国に至る多様な文化、建築物を自らの歴史として保存活用を進めている。日本の保存活動が学びの糧になり、アジアに影響を与え、大きな自信になった。

\*各地からの報告

日本から妻籠（長野県江戸期の中山道の宿場町。売らない、貸さない、壊さない・・・住民憲章を基に長く住民の町並み保存を進めている日本を代表するまち）、小樽（運河埋立反対運動から始まった歴史的都市の保存は現在日本でも有数の観光地となっている）、伊勢河崎（伊勢神宮の近くの港町）、マレーシアからは世界遺産ペナン・マラッカ、タイからはプーケット、香港の農村部のまちづくりの紹介、台北の中山商圈での町並み保存とまちづくり、中国から10キロの島、東莒（トウキョウ）島での活動は瀬戸内芸術祭の縁で男木島と小学生同士の交流が続いている。

各地からの報告

1. 日本・長野県妻籠宿(藤原義則)

2. 日本・北海道小樽市(中一夫)

3. 日本・伊勢河崎(高橋徹)

4. 馬来西亞・世界遺産檳城與馬六甲(林翠萍 | 檳島市政廳城市規劃師)

Malaysian World Heritage communities empowerment and conservation, Georgetown

5. 泰國・普吉島舊城區(Parinya Chukaew 泰國先皇學院建築、藝術與規劃學系助理教授)

Conservation and Development Plan for Phuket Old Town

6. 香港・薄見林村(高永康 | 薄見林村文化環境保育小組發起人)

Revitalization and Sustainable Regeneration of Pokfulam Village and Farm

7. 台灣・台北赤峰街・從舊街區發展看中山商圈(侯力今)

The Vision for Taipei Xinzihongshan District

8. 台灣・馬祖東莒(鄭惠琴)

Art exchange between islands

9. 台灣・山坪・海口・平原・村落跳島實踐(呂耀中)

The realization and empowerment of Taichung Communities

10. 台灣・苗栗苑裡(劉育育)

Cultural cultivation of Yuanli

台中市の農村部での活動は村を農村美術館として再生など、都市部に限らず地域の資産を改めて見直す活動は小学生から地域住民を巻き込んで多様な活動を進めていることが紹介された。台湾では住民を中心に若い世代も巻き込んでの

保存運動が進み地域の歴史と誇り、そして活動が人を繋いでいる。

►11月1日

#### \* 4分科会

各分科会はまち歩きをした後、事例報告と様々な視点での質疑応答で新しい気づきと幅広い活動の現場の意見が心に届いた。

第一分科会：大稻埕歴史街区の回顧と展望

第二分科会：台北場内における官民協力と分野横断的共創

第三分科会：市民生活と産業遺産

第四分科会：台北城南と集落建築群

#### ■第一分科会：大稻埕歴史街区の回顧と展望

午前はまち歩きでした。台北でも一番古い商業地区で、河港として台湾の様々な物品、茶葉、薬材の取引や布の商売など台湾北部の重要な役割を担っていた。



清代の建築物～日本統治時代の建築物まで多く残っている。1970年台から都市開発の中心が東に移り産業が衰退する。

道路拡幅や都市開発を導入し、1987年歴史的景観が失われるに憂慮した楽山文教基金会が保存運動を始めた。

その後も運動は続き2000年に保存計画ができる、その後25年で保存修復された建物は300棟に達し新たな産業や商業形態も導入された。



#### \*地域の問題点

- ・修復後の維持管理の仕組みと周辺街区の景観の生産が効かなくなっている
- ・表通りに重点が置かれ、路地や裏通りは制度設計が不十分
- ・修復後の居住に十分な効果が生まれていない
- ・歴史的建築物の価値や、文化的意義が市民と共有されていない
- ・イベント、商業施設の導入で観光客は増えているが地域構造

が変化し、文化保存、居住環境、観光商業のバランスをどう取るかが課題

・容積移転制度により保存抵抗は低下したが、うまく生かされていない

：午後の分科会



会場（元黒美人大酒家）



#### \*世界の事例

1. マレーシア・ペナン世界遺産歴史地区について
2. 倉敷伝建地区について (NPO法人倉敷町家トラスト 代表理事 中村泰典)

発表は「町並み保存と課題・・そしてこれから」と題して、倉敷のまちの発展の歴史と町並みと建築物の紹介。そして保存の活動のきっかけと保存の歴史を写真を交えて紹介。その後現状を歴史的建築物の保存状況や、景観の変遷、特に保存地区周辺の歴史的建築物の解体や更新を写真やマップをスライドで紹介。制度の有無や取り組みや仕組みの違いでチグハグな景観になってしまっていることを報告。さらに居住者の減少や、商業店舗の業種変遷と看板などで景観の統一感の乱れが生じていることなどに言及。課題として災害対応、持続可能性への懸念、ライフスタイル、ワークスタイルの変化、過度の観光化によるオーバーソーリズム、テーマパーク化の進行などを報告。最後に倉敷における今後の各セクターの役割について話した。



#### \*質疑応答とまとめ

(3日目の全体会の中で報告が行われた内容)

#### 各地の報告とディスカッションを学生たちがまとめた

分科会の振り返りと展望を報告から

- || 保存運動が生き生きした地域を生み出しているのか、それともただ「美しいだけで中身のない街」になってしまうのか・・・
- 保存の展望に鋭い投げかけをした
- ・・・大きな課題・・・
- || さらに街が成功し観光客で賑わうようになると・過度な商業化、観光地化の課題が浮かび上がる
- || 地域らしい生活の気配が薄れ、観光客向けの産業に入れ替わってしまう

#### ▲倉敷の報告から

##### || 倉敷の保存は成功しすぎの評価

- ・保存地区外の開発、職住分離、観光地化の進行

営業のみで居住者はごくわずか、保存地区は「テーマパーク」になり人の暮らしが失われている・・・世代交代の中で地域の誇りと暮らしをどう継承していくかが、職住分離の代償となっている

#### ▲台北でも、倉敷と同様に課題に直面している

##### ●同様な点

保存地区が定められ歴史的な町並みが保存されている  
保存区域外の整備が進められていない

##### ●違い

- || 迪化街・保存活動から 37 年
  - ・オーバーツーリズムになりかけ
  - ・地域の人の職住一体の形式が減少中
- || 倉敷・保存活動開始から 70 年～80 年
  - ・オーバーツーリズムになっている
  - ・地域に住んでいる人・職住一体が非常に少ない

#### ▲今後の課題

台湾の課題が中心になりました

- ・背景の計画について：
  - 面向的なルールが不明確で、保存地区のそばに高層ビルが立っている・・高さ制限がない。
  - ・看板類の規制
  - 規制がないので景観に相応しくない・行政がはつきり答えた・努力している人が足らない・・
  - ・容積率の移転制度
- 容積移転制度があり、建物所有者が余っている容積分をデベロ

ッパーに販売したり、新たなところ

へ建築物を建てることができる制度。外観保存と細かな修復ができる、従来の産業が営業を存続、中核産業が守られている。また地域オリジナル産業+文化クリエイティブ産業・観光が共生する景観が生まれた、しかしこれからが事業継承は課題である日本では限定的で東京駅舎の保存の時に、保存の資金にできた・内部の保存

ライフスタイルの変化で不都合が生じている

(倉敷では内部の保存は指定の建物以外は規制がない・・これは文化の継承では問題が起きます、暮らしの文化が引き継がれていない)

#### ▲観察と考察

内容については、学生たちのまとめ

1. ハードを保存することは町並みを保存することと同じではありません
2. 「経済の仕組み」は地域の持続可能性の鍵となります
3. 商業化は敵ではない。日常生活感覚の喪失が敵なのだ
4. 町並みの体験は「スムーズな歩行空間」から始まります

さあできるだろうか、あなたの地域はできますかと問われた！！

▶法外な家賃が過剰な商業プレミアムを生むのを防ぐために、コミュニティ協定を締結して家賃を一定の範囲内に制御することは可能ですか？

▶妻籠で「貸さない。売らない、壊さない」という取り決めはどうのうにして成立したのでしょうか？

・・感想

まちづくり、地域経営、景観保全に関心のあるユース世代の問い合わせを本気で受け止める大人でありたい。町並み保存を選択した地域はユース世代の大きな期待を背負っていると感じました。

・・・・・・・・・・・・

▶11月2日

#### \*全体会

分科会報告のまとめ・峯山富美賞・閉会式

(分科会のまとめは第1分科会の内容の後半部に記載)



(分科会報告)

・

閉会式



(峯山富美賞)



(閉会・連盟旗の引き継ぎ・三重県松坂大会へ)

· · · · · 以下追加資料 · · · · ·



(ポスターセッション・倉敷ブース)

· · · · · 台北市内の様子

2日目のまち歩きと



3日目のエクスカーション・  
萬華の廟と伝統的なまち並み

